

協働通信

平成25年に都留文科大学COC※推進機構が設立されました。COC推進機構では、地域と都留文科大学のつながりを作りだし、大学やそこに集う人たちが持つさまざまな力を地域のニーズとマッチさせていくこと、また都留文科大学での地域に関する研究や教育の成果をまとめ、その発展をサポートしていくための組織となることを目指しています。今回は、同機構の山口博史准教授にお話を伺いました。



■平成26年10月に名古屋市から本市に引っ越してこられた山口博史准教授。ギター、三味線、ラテンパーカッション、山登りなど多彩な趣味をお持ちです。

◆初めて都留にいらした時の印象はいかがでしたか。
都留に来たのは10月でしたが、こんなにも冷えることに驚きました。また、近

▽都留市まちづくり市民活動支援センター
都留市中央3-8-1
都留市まちづくり交流センター
▽開館
火～日(祝日除)
8:30～17:15
▽問い合わせ先
mail: shien@city.tsuru.yamanashi.jp
☎(43)1321
FAX(43)1322

所のスーパーでイルカの肉が売っている光景を見て、「新しい土地にやってきたのだな」と実感しました。私は三重県の鈴鹿で生まれ、津で育ったので、海が身近な存在でしたが、こちらは海の代わり山がたくさんあるので、地域の方々と海の話ができなくなることが少し寂しいですね(笑)。

◆1年以上都留で暮らしてみて感じることは。

研究者として、「無尽」の存在がたいへん興味深いです。国内では山梨県の他に、信州、九州、岐阜県飛騨地方や沖縄県などに存在し、外国でも各地に同様のものが存在します。無尽は、古い時代の金融システムという側面があり、金融機関が発達していなかった時代に盛んに行われていました。おそらく昔は、全国各地で行われていたと思います。都留で現存する無尽は、食事会や飲み会で親睦を深めることが主な目的となっていますね。

また、都留は人口約3万人のうち学生数が約1割を占めており、学生が常にまちの中にいることを織り込んで地域社会が成り立っているという、日本の中では特徴的なまちづくりを行っていると思います。

◆これからの地域と大学との関わりについての展望は。

地域に開けた大学を目指しているの、地域の方々や他地域の方にも都留にきてもらう機会を増やしたいですね。そのためには、地域の皆さんにもっと大学について関心を持っていただくことが大切だと思います。

そのきっかけづくりとして、今年2月に本学で「第1回郡内地方研究会」を主催し、2年前の大雪による都留市の雪害に関する研究報告会を開催しました。



■第1回郡内地方研究会の様子。初めての開催でしたが、研究に携わる教員だけでなく、市民の方や市役所の職員など約20名が参加し、当時の大雪の状況について活発な意見が交わされました。

この研究会の目的は、主に2つです。一つめは、大学の持つ学術的・専門的な知識を地域に発信するためです。本学では、そのような機会はあまり多くなかったように感じるので、今後このような研究会を開催していきたいです。

もう一つの目的は、地域に関する出来事や記録を未来に残しておくためです。人間の記憶は風化しやすいので、書き留めて後世に残しておく必要があります。また、今月から地域交流研究センター

都留文科大学地域交流研究センターが新しくオープンしました!

地域交流研究センターは、地域との交流や研究活動を支援するための拠点です。

この度、学生も地域の方々も訪れやすい空間に生まれ変わりました。本センター事業に関わる展示コーナーやフィールド・ノート編集部、どなたでも自由に利用できる交流スペースなどがあります。本センターおよびCOC推進機構の事業の問い合わせや、地域と学生が関わる活動の相談などにも対応します。詳細は大学ホームページや地域交流センター通信、ブログなどで紹介しています。

【場所】都留文科大学4号館1階(大学敷地内入って左奥)

【開館時間】平日9時～17時(大学の休校日は除く)



「地(知)の拠点整備事業」= Center of Community」の略称。
※COC・・・文部科学省のプロジェクト
がリニューアルされるので、以前よりも地域の方々にとって利用しやすい施設になると思います。ぜひお気軽にお越しください。